

東仙台地区社会福祉協議会

報 告 東仙台よろこびの会

第六十五号・令和八年 三月 三十一日 発行

発行責任者・紺野稜子
発行 東仙台よろこび会
事務所
宮城野区松岡町
56-2



東仙台よろこびの会

発足40周年式典の挨拶から

代表 紺野 稜子

東仙台よろこびの会は40年前、錦戸弦一初代東仙台地区社会福祉協議会会長、渡辺公一現会長が先頭に立ち、町内会長、民生委員の方々と結束し、地域の皆様の賛同を頂きながらボランティアを募り、発足の旗を上げて下さいました。その並々ならぬ思いは、今に確実に引き継がれています。

40周年記念事業に「三つの柱」を立てました。(1)40周年記念誌発行(2)日帰りバス旅行(3)記念式典・祝賀会です。記念誌作成にあたっては、沢山の方々から心のこもった原稿が寄せられました。この場をおかりし心より御礼申し上げます。発足以来今日まで沢山の出会いがあり、会員さん同士が、バス旅行で卒業後60年振りの再会を果たした方達がいきました。

私が関わった中では家族から勘当された方の事が強く心に残っています。町内会長、民生委員、よろこびの会で関わりました。3か月経った頃、心を開いてくれました。配食で食を回復し、会食会、バス旅行にも参加し、得意のハーモニカ演奏で皆さんを楽しませてくれました。釣り仲間も出来、明るい笑顔にこちらも嬉しくなりました。

病気で緊急入院の時、様々な社会資源活用で最後まで手厚い看護のもと安らかに旅立ちました。長男さんが引き取りに来た時、行事でのスナップ写真を1冊にして渡しました。長男さんは「親父を追い出したもののどんな暮らしをしているのか気になっていました。地域の皆さんに良くしてもらい見守られ、楽しく暮らしていたのですね」と涙ぐんでいました。子供達の行事に招かれて感じたことをお話しします。小学校の「学習発表会」では、世

界中で争いが起きている今日でも希望を見出す事の大切さを真剣に呼びかけているようでした。児童養護施設ラ・サールホームでは定期的に行われるコンサートには児童達がハーモニカバンドで出演していました。未来をしっかりと見据えた頼もしい姿に見えました。児童館の子供達が、一人暮らし高齢者に、長年メッセージカードを手書きしてくれています。温かい純粹なボランティア精神を感じます。皆が思いやりで繋がれた地域は本当に住み良いですね。最後に、本当に大切なことは良き人間関係に尽きます。協力し合い「和・輪」をもって活動を進める。その後ろ姿を子供は見えています。全員参加での40周年記念事業はまさに「金メダル」です。



継続は力なり

東仙台地区社会福祉協議会会長
東仙台よろこびの会顧問

渡辺 公一

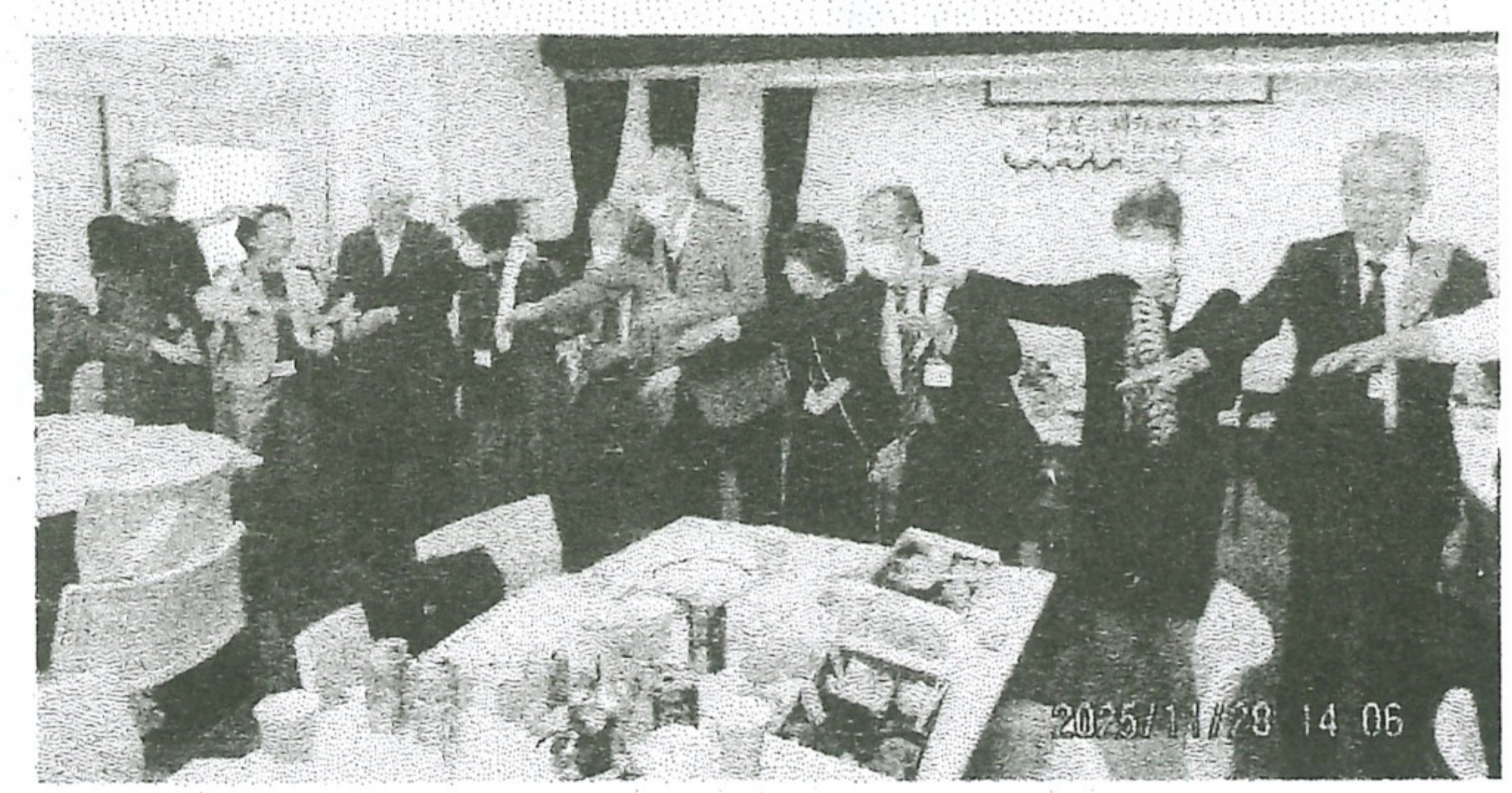
令和7年度、東仙台よろこびの会が発足40年目を迎えておりますが、高齢化している地域社会にとって、その活動の重要性は倍々高まっておりますが、これまでの活動の中で、仙台市や仙台市ボランティア連絡協議会、ロータリークラブなど各方面から表彰や感謝状をいただき、よろこびの会の活動に対する評価が増しています。

地区社協と一体となって「東仙台よろこびの会」が成り立っていることは、仙台市内でも珍しいことで、しかも40年にわたり活動が続けられてきたことは、ボランティア会員の献身的な使命感に支えられていることは勿論のこと、財政支援を続けている地区社協があつてのことでもあります。

「継続は力なり」とよく言われますが、正にその通りであり、東仙台地区にとって「東仙台よろこびの会」はなくてはならないものとなっております。活動の理念である「共に生きる」を心に刻み、これからも邁進して行きましよう。

発足40周年記念事業
終わる

昭和60年（1985年）に発足した東仙台よろこびの会は、今年度40周年となりました。今年度が始まってから、紺野代表を中心に、各部長、役員が集まり何度か会議を開いて記念事業の進め方を話し合ってきました。40周年記念誌発行、日帰りバス旅行、記念式典・祝賀会と全ての記念事業を無事終了いたしました。関わってくださった全ての方々に深く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。



光が丘の地名について

光が丘町内会

会長 松村 和昭

「光が丘」と呼ばれる地区は、現在の東仙台五・六丁目を指します。かつての地名は「原町小田原字安養寺下」であり、公的な記録からはその名前を見つけられませんでしたが。

この丘には、戦前、仙台小神学校が建てられました。戦後もスペルマン病院や児童養護施設ラ・サールホームといったキリスト教関連の施設が集まり、今に至ります。病院を運営する光が丘愛世会によると、この名は聖書の「闇の中を歩む民は大いなる光を見る」という一節に由来するそうです。

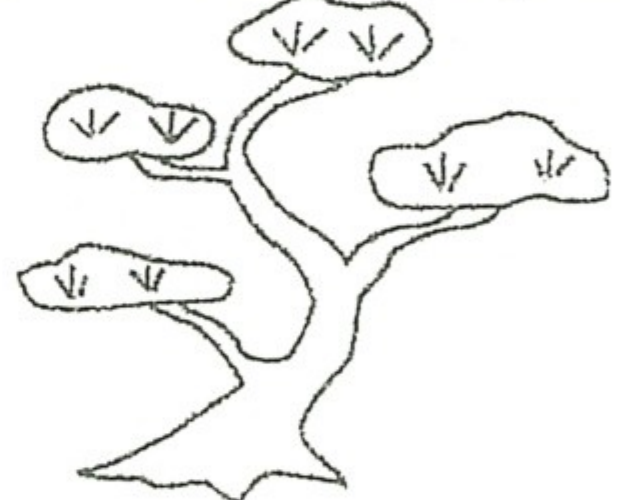
七北田丘陵の南側に位置するこの丘からは、遠く海まで見渡せ、水平線に昇る朝日も望めます。光を見つめる地の名にふさわしい、穏やかな場所です。



40周年記念事業を終えて

総務部長 菅野 郁子

発足40年の一つの区切りとして、式典と祝賀会を行うことが決まり、早速、総務部は動き出しました。



まず日時、会場の設定でいろいろ考慮し、11月28日に東仙台コミセン大広間で行うことにしました。招待状等の書類の作成、発送を始めとして式典の内容、祝賀会は、出席してくださる方々が楽しい時間を過ごせるようにとの思いで知恵を出し合い内容を煮詰めていきました。

初めての試みとして、プロジェクトを用い、これまでの歩みを振り返ってみました。写し出されたお弁当作りや、バス旅行などの様子に会場の来賓の方々も感心されたり驚かれたりしていました。振り返ると最終段階まで来るのに度重なる変更などで作業も多くなり大変なこともありましたが、総務部や役員のみなさんと一丸になり取り組み、やりがいのある時間を持てたと思います。



平成29年3月 弁当作り

平成24年3月11日

事業部長 荻野 洋子

今年も忘れられない3月11日が来ました。東日本大震災の後、多くの方が避難所での不自由で窮屈な生活だったかと思えます。

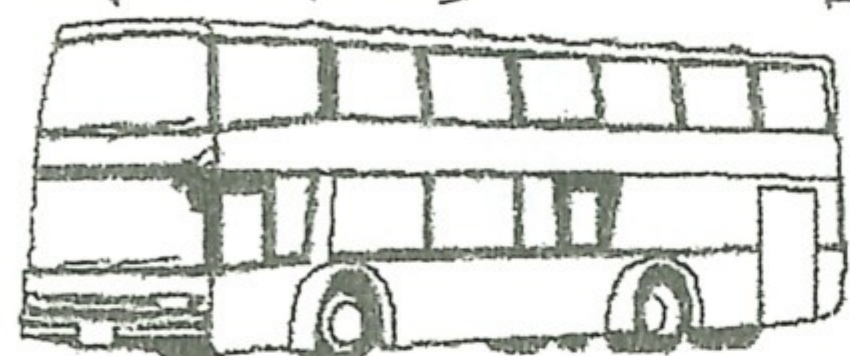
そんな時、「東仙台よろこびの会」で何か会員さんに喜んでもらえる事はないかと相談した結果「温泉でゆつくりしてもらおう」という事になり、善は急げと会議で決まりました。

早速、秋保温泉の『ホテルニュー水戸屋』に電話を入れましたが、もしかしたら地震の影響で休業していたり、反対に満員で断られたりするのでは？と不安で一杯でした。けれども、その不安は杞憂に終わり、了承をいただいたのです。

準備期間が短いので忙しくなりました。下見やプリント配布、説明会や水戸屋さんとの打ち合わせを重ね、詳細を決めていきます。

当日は、会員の方55名の参加となり、とても喜んでいただきました。

私は3月11日が近づくと、この温泉に関する出来事を思い出すのです。



平成29年6月 仙台市 鐘景閣



令和7年10月 福島米沢方面

忘れられない1年

広報部長 横山 久美子

今年度の広報部は、発足40周年の記念誌作りに部員5人が全員で取り組みました。

初めて経験する人が多かったのに、30周年記念誌をお手本にして、代表のご指導を頂きながら作業を進めました。何度も壁にぶつかりながら、何とか形にすることができたのは原稿をお願いしたお一人お一人の方が協力してくださったお陰でした。

部員だけではパソコンの技術がおぼつかないので部を超えて他の部の方々にもぜひお手伝いを頂き本当にありがとうございました。又、私事でしたが、途中でリタイアをすることになって大変ご迷惑をかけてしまいました。印刷、丁合も皆様のお力を借りし、最後は役員全員で表紙付け作業をして頂きました。

立派にできたばかりの記念誌を部員たちが自宅まで届けてくれた時には感激で胸が一杯でした。よく頑張ってくれました。皆様のご協力で40周年記念誌をお届けできました事に、心から厚くお礼申し上げます。

昔遊びに参加して

会計部長 伊藤 宣子

今年1月16日、東仙台保育所で、昔遊びに五名で参加しました。私は、福笑い担当になり、目隠しをした子供達に、顔のパーツを手渡しました。完成したおかげとひよつとこの顔を見ては、皆で笑い合い、楽しく遊びました。

また、1月30日には、東仙台小学校一年生との昔遊びに10名で参加して来ました。3時間目の授業で私は、こま担当になり体育館で皆さんと、こま回しに何度も何度も挑戦しました。校長先生と一年生数人が、「できた！」と喜んでいました。私は出来ませんでした。

4時間目は、教室で福笑い担当になりました。おかげのパーツを手渡し、完成した顔を見て、皆で大笑いしました。今年も福笑いです。始まり、皆さんに沢山楽しさと元気をもらいました。(笑う門には福来たる)ですね。



令和元年12月東仙台小学校

発足40周年を終えて

4班 山口 郁子

ボランティアの方々が長年続けてこられたことは、本当に尊い歩みだと感じております。40年という歳月には、多くの方々の思いと努力、そして「誰かの力になりたい」という優しい心があつたのだと思います。

発足当初は、手作りのお弁当作り。ひとつひとつに込められた温もりは、きつと召し上がる方の心まで温めていたことでしょう。

長く活動を続けられ「見守る心」「寄り添う気持ち」は受け継がれているのだと思います。

敬老の日やクリスマス会、日帰り旅行など、季節ごとの行事は、大きな楽しみであり、生きがいになっていることと思います。「誰かが自分なことを気にかけてくれる」という安心感こそが何よりの支えになっているのでは無いでしょうか。地域に根差した活動の存在は、支える側も支えられる側も、ともに笑顔になれる関係です。40年も続いて来た地域の誇りです。これからもあたたかな灯をともし続けてくださることを願っております。

東仙台よろこびの会 発足40周年を祝う会にて

5班 永野 幸子

令和7年11月28日(金)
記念式典と祝賀会に、宮城野区長はじめ地域の皆様、ボランティアの皆様等多くの方々の参加をいただきました。

祝賀会の会場で、お弁当を手渡ししながら会員の皆様がお元気でいることの確認。そして歴代のボランティアの皆様が、活動に喜びを感じ、健康で暮らしている様子に後人の私も深く感銘いたしました。

2月には、40周年記念として、お赤飯と紅白まんじゅうをお届けし、皆様にとっても喜んでいただき、こちらも嬉しくなりました。

これからも地域の皆様と交流を重ねながら、会員の皆様とお話ができる自分でありたいと思っております。



お赤飯と紅白まんじゅう

5班 渡邊 清美

東仙台よろこびの会が発足して40周年記念の年にボランティアとして参加させて頂いている事を嬉しく思います。

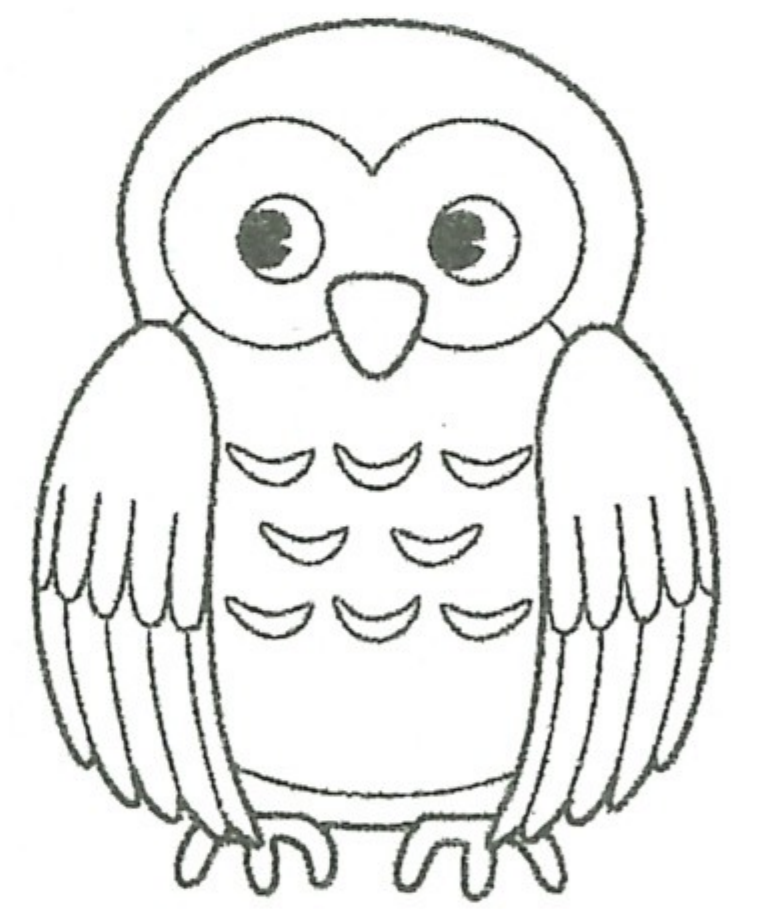
私はまだ参加して2年目で、いまだに先輩の皆様に教えて頂きながら付いて行っているだけです……いろいろな記念事業がありました、中でも良かったと思っただのは、会員の皆様にお赤飯と紅白まんじゅうをお届けできた事です。

一軒、一軒お届けすると大変喜んでいただき、「ありがとうございます。早くいただきます。」「こういうプレゼントが一番うれしいの。」

と言っておりました。これからも、会員さんに喜んでいただけるような活動をしていけたらと思います。



感謝



2班会員 勝又 千恵子

よろこびの会40周年、誠におめでとうございます。

ボランティアの皆様方のご苦勞のおかげで私達は守られているのです。感謝申し上げます。

又、先日は記念のお赤飯、まんじゅう、折紙で作られた親子ふくろうをいただきありがとうございます。

ふくろうさんは私の座る正面に飾り、見ているとなんとも愛らしく心が和みます。皆様に配るくらい作るには、さぞ大変だったでしょう。大事にしますね。

私も歳を重ね買物に行くにも難儀になつてきました。でも頑張つて出歩くようにしています。その辺で会いましたらどうぞ声をかけて下さい。

今日も、ふくろうさんにエールをもらい楽しく暮らしましょう。

川 柳

2班会員 勝又 千恵子

何よくて デートもせずにつれ添いて

十二年

一人暮らしも 板につき

朝三時 ラジオは演歌

しみじみと

編集後記

皆様からの支えをいただきまして、40周年記念事業を、無事終えることができました。

広報紙65号が出来上がりましたのでお届けいたします。40周年記念事業を中心に編集しました。楽しくお読みいただけたら幸いです。

3月に入ってからの暖かさに梅の花が満開になりました。とても気持ち華やきます。皆様も身近な春を探しに出かけてみませんか。